キャリア授業におけるクラス風土が生徒の動機づけに及ぼす影響(2)

自己決定理論の観点からの検討

○大井はるえ¹・黒石憲洋²(¹埼玉大学大学院教育学研究科・²日本教育大学院大学)

キーワード: 動機づけ, キャリア教育, 自己決定理論

Effects of Classroom Climates on Students' Academic and Career-related Motivation(2): From the Perspective of Self-determination Theory

Harue OOI¹ and Norihiro KUROISHI²(¹Graduate School of education, Saitama Univ., ²Japan Professional School of Education)

Key Words: Motivation, Career Education, Self-Determination Theory

目 的

自己決定理論 (Deci & Ryan, 1985) では、外発的動機づけによる行動は、自己調整の連続体の中で位置づけられ、3つの基本的な欲求の充足を支援することで価値が内在化するとされる (Grolnick & Ryan, 1987)。

実証研究として、Grolnick & Ryan (1987) は小学生の学習について、統制の強い状況ではプレッシャーが強く、学習効率が低下する一方、統制の弱い状況では興味や学習効率が高まることを示した。

キャリア関連授業のクラス雰囲気と学業的・キャリア関連の動機づけについて、大井・黒石(2012)では、自律性支援と関連づけられる「意味や価値への方向づけ」は充実感・将来の展望や学習活動を促進し、構造と関連づけられる「枠組みの強さ」は意欲や友人関係を促進し、無力感、職業忌避傾向を減少させるという結果が得られた。

本研究は、3年間のキャリアプログラムを推進しているある高等学校を取り上げ、縦断的研究の2年終了時におけるキャリア関連授業のクラス雰囲気が、学業的動機づけ・職業忌避に及ぼす影響について検討した。

方 法

「学生生活、進路・職業について」「学校におけるキャリアプログラムについてのアンケート」と題する質問紙調査を実施した。

調査対象 キャリアプログラムを推進している工業高校の第2学年全員 150 名を対象とし、学年中の退学者や調査当日の欠席者、その他重大な欠損値を含む対象者を除外し、148 名を有効回答とした。

調査時期 各授業の終了する第2学年の終了時とした。

使用尺度 大井・黒石(2012)で作成したクラス雰囲気を測定する尺度を使用した。因子分析により「意味や価値への方向づけ」および「枠組みの強さ」の2つの下位尺度から構成される。

学業的動機づけの測定には、中学生版無気力感尺度 (笠井ら, 1995) を使用した。また、キャリア関連の動機づけの測定には、職業忌避の傾向尺度 (古市ら, 2007) を使用した。

結 果

キャリア関連授業のクラス雰囲気と学業的・キャリア関連の動機づけの指標の相関係数を算出した (表参照)。

「意味や価値への方向づけ」は、すべての授業で「積極的学習活動の欠如」と負に、ものづくりの授業で「充実感・将来の展望の欠如」と負に関連した。

「枠組みの強さ」は、すべての授業で「意欲減退・心身的不全感」および「消極的友人関係」「無力感・あきらめ」と負に、ものづくりの授業で「職業忌避傾向」と負に関連した。また、体験の授業で「充実感・将来の展望の欠如」と正に関連した。

考 察

大井・黒石(2012)の研究と同様、自律性支援と関連づけられる「意味や価値への方向づけ」は学習活動やほぼ充実感・将来の展望を促進した。また構造と関連づけられる「枠組みの強さ」は意欲や友人関係を促進し、無力感、職業忌避傾向を減少させるという結果が得られた。これらの効果はほぼ弁別的であったことから、自律性支援と構造が相互に異なる影響をもつものであることが示唆された。

また同様に、「意味や価値への方向づけ」は意欲を低めるとともに無力感を増加させ、「枠組みの強さ」は充実感を減少させて、学習活動を消極的にすることが示された。

2年時にはインターンシップでの経験、修了時には生徒の適性・進路希望にしたがって「機械加工」「オートメカニク」「設備」「コンピューター」「デザイン・インテリア」に専門科目が分かれ、職業決定は翌年に迫ってくる。現実には直面していく中で、生徒はやりがい、充実感や意欲も感じ、次第に無力感や職業忌避など言っておられず、友人と相談しながら学習活動を進めざるを得ない状況になっていくのではないかと推測される。

Grolnick & Ryan (1987) は小学生の学習について、統制の強い状況ではプレッシャーが強くなると指摘したが、職業決定を翌年に控えた高校生には、キャリアプログラム関連授業の教員の与える「枠組み」が安心感を与え、無力感や職業忌避を減少させて意欲を高める可能性が示唆された。

表 キャリア関連授業のクラス雰囲気と2年次終了時の学業的・キャリア関連の動機づけの指標の相関係数

授業		無気力				職業忌避傾向
		意欲減退	充実感の欠如	消極的友人関係	無力感	学習活動の欠如
CG	価値づけ	.094	-.154	.012	.041	-.168*
	枠組み	-.326**	.014	-.369**	-.265**	.040
ものづくり	価値づけ	.134	-.186*	.023	.116	-.306**
	枠組み	-.322**	.024	-.483**	-.313**	.039
体験	価値づけ	.011	-.078	-.020	.079	-.188*
	枠組み	-.275**	.197*	-.374**	-.292**	.080

**P<.01 *P<.05